
◎一般質問

○議長（稲葉昭宏君） 日程第１、昨日に引き続き、一般質問を行います。

質問の通告がありますので、順次発言を許します。

◇ 土 屋 清 武 君

○議長（稲葉昭宏君） 通告順位６番、土屋清武君。

（６番 土屋清武君 登壇）

○６番（土屋清武君） 一般質問の機会を得ましたので、これより一般質問を行います。

私の質問は、町長２期目のまちづくりについてと町道貫七線の２点であります。

昨年12月定例会で町長の所信表明が行われ、２期目の就任にあたり、松崎町第５次総合計画に基づき、６つの基本理念をあげ、今後４年間の取り組む政策の中心にそなえ、これを実現のため、第１点としまして、地域経済の活性化、２点目に少子高齢化対策、子育て支援、３点目に防災対策とし、この３点を重視して諸施策を進めるとしております。

そこで、３点目の防災対策については、同僚議員が質問するようですので、私は他の２点について伺います。

まず、１点目の地域活性化について考え方をお伺いします。その中で、イ．「町民が先生となり、体験を通じて対価を得る」とあります。その対処方法をどのようにするか伺います。

ロ．農林水産物の６次産業化の対応策について伺います。

２点目の少子高齢化対策、子育て支援についての関係を伺います。

イ．若い世代が未来を担う子どもたちを生みやすい環境づくりとしてありますが、どのような方法なのか教えていただきたいと思います。

ロ．南伊豆で計画されている杉並区の介護施設のその後の状況はとして、これは町長の施政方針にはありませんが、この高齢化関係に関連しますので、その状況を説明願います。

③として、これら施策等を町長は２期目のまちづくりとして取り組んでいくということですが、この施策等を町民にどのように広報し、周知に努めるのか、その方法をお伺いいたします。

続いて、貫七線についてであります。昨年６月定例会にて私が一般質問を行いました。が、用地交渉に困難を要しているという旨の回答があったわけですが、その後の状況をお聞

かせ願います。

以上で壇上での質問を終わります。

(町長 齋藤文彦君 登壇)

○町長（齋藤文彦君） 土屋清武議員の一般質問にお答えします。

１．町長２期目のまちづくりについて。

①地域経済の活性化について。

イ．『「町民が先生となり、体験を通じて対価を得る」その対処方法について』であります。

私は、これまで「全町まるごとふるさと自然体験学校」を掲げ、町民が教師となり、農山漁村でのさまざまな体験を通して、対価を得る滞在型グリーンツーリズムを推進してまいりましたが、町政２期目に当たっても体験型観光をより積極的に展開してまいりたいと考えております。

体験を通じて対価を得ております例では、岩地地区での地引網や釣り、カヌー、シュノーケリング、干物づくりなど海の体験を活かした「冒険修学旅行」などの他、石部の棚田で行われている棚田オーナー制度もあげられます。

また、個別の体験といたしましては、松崎町振興公社で行われている漆喰饅絵、光る泥団子、まゆ玉人形、鮎のつかみ取り体験や民間では甘夏みかん狩り、ぶどう狩り、シーカヤック、スキューバーダイビング、トレイルツアーなどがあります。

しかし、まだ体験メニューや指導者が十分ではございません。グリーンツーリズム事業を連携して推進している振興公社とともに、四季を通じて松崎町で大人から子どもまでいろいろな体験ができるように、農林水産業関係者などにも働き掛け、新たなメニューの発掘・開発を行うとともに、指導者研修も重ね、都市住民に松崎らしい魅力的なメニューを提供できるようにしてまいりたいと考えております。

ロ．「農林水産物の６次産業化の対応策について」であります。

私は、選挙公約の中で農林水産物の活用と商工業との連携による「６次産業化」を推進し、地域経済の活性化を図ることを取り上げさせていただきました。

６次産業化のこれまでの取り組みにつきましては、農業振興会後継者育成部会が耕作放棄地を活用し、レモングラスの栽培を行い、レモングラスティーや入浴剤などの商品化を行っていることや、松崎町商工会では、ヨモギの活用について調査研究を重ね、昨年１２月にはヨモギのパウダーを使った加工品の試食会が行われ、平成２６年度中の商品化を目指しております。

す。

また、町民有志で行っている耕作放棄地を活用した桑の葉の栽培も、昨年11月にはパウダーを使った加工品の試食会が行われ、今後の商品化に向けて検討をしております。

これらの取り組みは、耕作放棄地解消とともに新たな松崎ブランドの創出にもなると考えておりますので、町としても状況を見ながら対応してまいりたいと考えております。

②少子高齢化、子育て支援について。

イ．「若い世代が未来を担う子どもたちを生みやすい環境について」であります。

少子化対策は今や重要な国策でもあり、児童手当やこども医療費助成など、以前と比較すると格段に整備されております。

しかし、子どもや若い世代を取り巻く環境は刻々と変化、多様化しており行政が担う責務は益々大きくなります。

国や県が行う施策については省略いたしますが、町でできることとして平成26年度予算において、保育時間の延長、奨学金貸付額の増額及び教育ローンの利子補給や、妊娠や子育てについて気軽に相談できる24時間電話健康医療相談などを新たに開始します。

また、最も大事なのは、若い世代が安定した収入を確保できることと、家庭が円満に子育てをできる環境を作ることが必要で、そのために経済産業の活性化、教育、医療、福祉の充実を目指したいと思います。

ロ．「南伊豆で計画されている杉並区の介護施設のその後の状況は」についてであります。

特別養護老人ホームは県知事の許可を受けて、その地区の対象者を入所させるという原則があります。東京都杉並区と南伊豆町は従来から住民間の繋がりがあるという特別な理由から建設について検討されてきました。

当初は、法律の壁があり難航するとの声もありましたが、杉並区、南伊豆町及び静岡県の実力が実を結び、かなり具体的な調整に入ったように伺っております。

しかし、前例がない事業で、介護制度に大きく影響するデリケートな部分もあることから国、県、町で慎重に進めており、当町としては静観しているところです。

なお、規模等を定める場合には、各市町が介護保険事業計画の中で需要床数を定める他、現在調整中の待機者数調査の結果を踏まえた上で決定することとなりますが、下田を含む賀茂圏域は福祉をはじめあらゆる点で協力し合っている背景から、松崎町の方も利用できる施設になると思われます。

③「2期目のまちづくりについて、町民への広報の方法は」についてであります。

第5次総合計画の基本理念では、町民一人ひとりが主体的にまちづくりに参画し、松崎町全体が一体となって進めるまちづくりを基本としています。

そのためには、まちづくりの考え方を町民の皆様に伝え、共有していくことが重要と考えております。現在、広報紙やお知らせ版、同報無線、ホームページなど多様な媒体により、情報提供の充実を図っているところでございます。

特に、毎月発行している広報の「町長室からこんにちは」は、私のまちづくりに対する考えや思いを伝えているものの一つでございます。

また、区長会や各種委員会、団体開催の会議等において説明するとともに、町のスポークスマンである職員を通じてまちづくりの考え方を伝えております。

町政懇談会もその一つの広聴の手段であり、総合計画の地区説明会や過去においては、議員もご承知の通り、「町政を語る夕べ」を何地区かで開催したこともございますが、参加者や発言者も限定されていたことから、手法について検討する必要があると考えております。

いずれにいたしましても、広報広聴は、まちづくりにとって必要不可欠なものと認識しておりますので、積極的に対応してまいります。

2. 町道貫七線について。

①「用地交渉の進捗状況は」についてであります。

町道貫七線の改良は、県営の中山間地域総合整備事業として実施されておりますが、現在のところは用地交渉の準備段階という状況で、地権者の連絡先等の調査をしている状況ということです。転居先が不明の方や未相続の筆も多く、用地取得に時間を要することが予想されますが、予定通りの事業を県に要望するとともに、事業推進に協力しているところでございます。

以上でございます。

○6番（土屋清武君） 議長、一問一答をお願いします。

○議長（稲葉昭宏君） 許可します。

○6番（土屋清武君） 議長、もう1件了解をいただきたいのは、グリーンツーリズムの関係で、ちょっと質問をするわけですがけれども、その関係で振興公社の絡みも出てきますので、その辺をご了解いただきたいと思います。

○議長（稲葉昭宏君） 関連があれば許可いたします。

○6番（土屋清武君） 町長、いま伺っておりましたけれども、町民が先生となり、体験を通

じてというようなことで、今まで町長 1 期の間にグリーンツーリズムの関係で一生懸命でやられてきたわけです。

実は、私はこのグリーンツーリズムの関係で町民が先生となりと、こういうようなことで、いま回答にもありました岩地地区の修学旅行、また石部地区の棚田というようなことが回答にあったわけですがけれども、実は、私はそういうようなことをやっているということは承知していますけれども、これを料金が・・・、地引はどのくらいするのかというようなことまで全然わかっていなかったわけです。それで、どういうふうにしてこれを・・・、申し込んできたら説明をするのか。また、外へこういうことを松崎町ではやっているというようなことを、外へどのような PR の仕方をしているのかということについてちょっと疑問があったわけです。ところが、昨年度こういうものを作ってやっているわけですね。これは、グリーンツーリズム推進協議会ですか、これは議員の方たちは知っていますかね。私は初めてみたんですけれども。

だから、町民は何をやっているかというのがよくわからないんじゃないかと思うわけですよ。それで、これを見ますと、修学旅行が対象になっているような内容ですので、それじゃあ町民全体への関連するものじゃないんじゃないかと、今後、町長、2 期目としては、そういうことだけでなく・・・、これを見ると海岸ばたばかりですので、ざいと言っておかしいですがけれども、八木山方面、中川方面、岩科方面というようなところについては、それなりのグリーンツーリズムで取り上げる方法はあるかと思います。というのは、私は、先だって新潟の上ノ山温泉に行かせてもらったわけですがけれども、やっぱりあそこもグリーンツーリズムで滞在型というようなことをやっているようですけれども、それについては、杉、ひのきの山の中を整備して、その中を散策させると。それには地域の伝説等を絡めてそういうようなコースを作ると、そして、やっていると。これはその地域でも、ここは会社を作ってやっているようでしたけれども、そういうようなことも考えないのかなというようなことを・・・、これはあとで質問に絡むことですがけれども、今までですと、海岸ばただけのようですがけれども、それで、この雲見地域の・・・、昔から皆さん町民の方は知っていると思いますけれども、ダイビングの人たちが多いわけです。その関係の、これは個人で教室をやっているようですけれども、そういうようなことが・・・、グリーンツーリズムは町全体をある程度みてこれを作ったのか、そこらにちょっと疑問があるわけですが、どうですか。伺います。

○企画観光課長（山本 公君） いま土屋議員がお示しいただいたものは、平成23、24だったですかね、振興公社の方で国の子ども農山漁村交流プロジェクト事業を活用いたしまして作

った学校向けの誘致のパンフレットだと思います。

岩地海岸において修学旅行が平成12年から行われているわけですが、なかなかメニュー等を知らしめる資料がなかったということの中で、国の補助を活用して、そちらの中では主に岩地が中心、棚田のものも何かあると思いますけれども、それで作ったということでございまして、それを持って県内の小学校とか、あるいは県外へ誘致活動に回っている状況でございます。

それ以外の体験メニューについては、いま町内でも町長が先ほど述べましたように、振興公社が行っている体験もあるわけですし、あと、山間部に行きますと、みかん狩りですとか、ぶどう狩りですとか、そういったものも実際にあるわけでございます。

お話にありましたそのダイビングですか、ダイビングの関係なんかにつきましても町のホームページでご案内をしていたり、体験メニュー一覧ということで。数は少ないわけですが、紹介をさせていただいております。

それから、各体験メニューなんかについては、議員もご承知かと思いますが、今は公社の方で出している「温泉郷だより」、そういうものの中でもご紹介をしたりというようなことがございます。ただ、メニューの数がなかなか少ないものですから、農業、漁業あるいは林業、それらの関係のメニューをできるだけ増やしたいという思いもありまして、研修とか、働きをかけて増やしていきたいということで考えておりますけれども、なかなか十分に増えるまでは行っていないのが現状でございます。

○町長（齋藤文彦君） 岩地のその修学旅行の件ですが、それは、岩地観光協会がもう「これから先どうしたら活性化させることができるだろうか」というのを12年位前にいろいろ考えて、それで、今、下田の方で修学旅行というのが非常に流行っているから、岩地でもどうだろうかというような話があって、役員が集まって何年も研究したわけですよ。

そして、修学旅行をやるにはやっぱり一番どこが大切かといったら、事務局が一番大切だということで、2～3年前からエージェントとか、先生とかと話し合っただけですが、それがなかなか出来なくてなかなか進めなかったわけですが、その事務局を漁業組合がやってくれるような話があってとんとん拍子にいったわけですね。

そして、あれは岩地の観光協会自体がメニューを作ってエージェントを呼び込みに行ったんです。そうしたら、非常にこの地引網とか、カヌーとか、櫓こぎとか、非常に珍しい体験がたくさんあって、これは素晴らしいということで非常に発展したわけですね。

それで、私もまつぎき荘を修学旅行のメッカにしたいというようなことを思うわけですね。

れども、じゃあ、体験メニューを誰がやるかというのになるとなかなかやってくれる人がいないわけですよ。本当は山の方へ行行って田植えをやったり、しいたけの菌打ちをやったり、みかん狩りとか何とかという、こういうグループができて、「じゃあ、おれたちはこれができますよ」というようなことができれば本当に真剣に各学校を回ってやることができると思うんですけども、いま本当に岩地というようなところで限定されていまして、石部の方にも雲見の方にも声を掛けたことがあるんですけども、「そんなことはできない」というようなことで、非常に厳しいところに来ています。

これは、私の全町まるごとふる里自然体験学校の本当の本家本元だと思っていますので、うまい方法ができればいいかなと思っていますところでございます。

○6番（土屋清武君）　いま町長が言われたように、岩科、中川の方でもそういうようなことができるようにするのが良いわけですけども、それをやらないと、一部のところ、地域だけ、行政はいったい・・・、町民全体を考えてくれているのかというようなこともありますので、その辺を心にしてぜひ体験メニューを、わさび沢の関係とか、また、先ほど言った森林浴の散策関係とかというようなことをコースを作って、ぜひお願いしたいと思います。

それで、もう1点、実はグリーンツーリズムで先だって新聞折り込みが入っていたわけですけども、この内容がどうなのか。参加申込みが西伊豆町の堂ヶ島ピアドーム天窓内というようなことで、これはNPO法人の伊豆自然学校というようなところへと申込みになっているわけですけども、そして、この主催が松崎町の振興公社というようなことになっているわけですね。運営がNPO法人の伊豆自然学校となっているわけですけども、この辺の関係を・・・これは、松崎町以外のところの住民でも申込みができるのかどうか、その辺も含めて説明願いたいと思います。

○企画観光課長（山本　公君）　今月29、30日で開催されます地域案内人養成研修のお話かと思っています。振興公社が主催という形になっておりますけれども、参加申し込み・お問い合わせがNPO伊豆自然学校、西伊豆町にある団体でやっておりますけれども、確認をいたしましたところ、そちらの団体が県の方の補助をもらって、ここだけではないですけども、何カ所かでやっている事業に振興公社の方も協力させていただくという形で載せていただいている事業というように伺っております。主催の書き方が良かったかどうか、共催みたいな形で良かったのかということはありませんけれども、先ほどありましたように、その体験指導者というのを増やさなければならないというようなことがありますので、その前段としての基礎勉強をしていただきたいという思いがありまして、一緒にやらせていただくという

ような形を取りました。

ですから、お問い合わせのところに振興公社という名前を併記させてもらうという形もあったのかなというふうには思いますけれども、そのような状況でこれを対応させていただいております。ここの中には、町民に限るとかということは書いてないみたいですので、それはこの募集要項を読む限りにおいては、外からでもいいのではないかと認識しておりますけれども。

○町長（齋藤文彦君） ちょっと追加します。これは、修学旅行をやるにしても何をやるにしても、指導者が非常に少ないわけですね。もし、修学旅行が来て、それを教えるにしても安全面を考えたり、どういうふうなシステムで、こういうふうにやっていくかというのがある程度ちゃんとできていかないと修学旅行を学校の方に「来てください」と言えませんので、そのような指導者を養成するための、松崎町で指導者を増やしたいなというような意味で振興公社が中心になってやっていただきたいなと思っているところでございます。

○6番（土屋清武君） それで、この内容を見ますと、案内人コースというようなことで、先ほど町長の言われた指導員、いま言われた指導員等についての養成というのは、見受けられないわけですが、これはただあるものを説明する案内人コースというようなことのように思いますが、いま町長の言われた指導者の関係については、どのような方法で養成をやられるのか、その辺をお伺いしたいと思います。

○町長（齋藤文彦君） 指導者を養成するというのは非常に難しいわけですが、そこをやっているところは、「町のこういう所にこういう良い所がありますよ」というような、ちょっと案内するような形でやっているわけですが、やっぱり町のガイドをする人とか、山の案内をする人とか、「おれは鉾山に詳しいから、ジオパークを案内する」とか、そういうのがいろいろ分かれてくると思うんですけれども、そういうことも松崎の町内にどのような・・・、西伊豆町、松崎町にどのような、そういう場所があるのかというようなことを教えながら、指導者を養成していくような感じになると思うわけですね。いいでしょうか、これで。

だから、指導者というのは、グリーンツーリズムの指導者になるには、それなりの知識と勉強をして、連れて来る人にちゃんと案内できるような体制を整えていかなければいかんわけですが、そういうような指導者というのが、松崎町内にもいませんし、そのような人をつくるような中での一つだと考えているわけでございます。

○6番（土屋清武君） 実は、八木山の方で、ここの職員であった田口君なんか炭焼きをや

っているわけですがけれども、これらの体験なんかも大いに取り上げてやるべきではないかというような感じがするわけですがけれども、現実にはそういうようなわさび田だって昔から池代地域についてはそれなりに実績のある人たちがいるわけですので、そういう人たちをお願いして、指導者になっていただくとか、そういうような努力をしなければ、言ってこないからダメだということではなく、グリーンツーリズムの方から積極的にそういうところの地域に入っていくって、「ぜひお願いします」というようなことをしなければ、そういう指導者は生まれてこないんじゃないかと思うんですけれども、その辺はどうですか。

○町長（齋藤文彦君） それはずっと前からやっているわけです。その八木山の方の炭焼きの方でも「ぜひこれをやってくれないか」というような話がありましたけれども、「自分たちでいま楽しんでいる状態で、まだそこまではいかない」と、それで、わさび田に関してもそういう話をしました。ある農園に、やってくれる人にも「農業体験ができないでしょうか」と言ったら、「いつ修学旅行が来るかわからないのに、そんなことはやってられないよ」というようなことで、なかなか難しいところがあります。

これが本当にうまくいくと、本当に全町まるごとふる里自然体験学校が本当に全盛になると思うわけですがけれども、なかなかやってくれる人がその気になってくれないというようなところがございまして、非常に苦慮しているところでございます。

それが全然話しかけていると言うわけではなくて、いろいろな芽が出ているようなところにいろいろ話しかけているところでございます。

○6番（土屋清武君） わかりました。極力そのような努力をされていただきたいと思います。

それで、先ほど私がちょっと言ったダイビングの関係ですがけれども、個人で教室を開いてインターネットでやっているわけですがけれども、これはグリーンツーリズムで取り上げていただいて、ぜひPRの方をしていただければと思うわけです。

続きまして、6次産業の関係ですがけれども、町長、先ほどは、商工会というようなことで、今までと同じような組織等で対応したいというようなことですがけれども、それは商工会等でも昨年やったようなものは変えるかわからないですがけれども、もうやるということは了解しているわけですか。

○町長（齋藤文彦君） ヨモギでやろうと今、一生懸命努力しているところですね。商工会も。

それで、ヨモギもいろいろな・・・、粉にしていろいろな食品ができてきて、私も試食しま

したけれども、それを販売するとか何とかというまではなかなか厳しいのかなと。これから本当に良い物を作って、松崎ブランドじゃなくて伊豆ブランド、静岡ブランドにしていかないとなかなか6次産業というのは、非常に難しいのかなと思っています。

私は、その6次産業に関しては、松崎町が早場まゆの産地で初まゆの値が世界の値段を決めたと、それで伊豆松崎相場というようなことを言われて、それから、静岡県で最初の民間の製糸工場ができて、6次産業で松崎がものすごく経済的に潤ったということがあるわけですから、今はヨモギとか、本当にいま桑の葉をやっている人がものすごく増えてきましたけれども、それをうまく利用して、6次産業に結び付けるような形に持っていければいいと思うわけですが、そういう大きな企業がいて・・・、これは、大きな企業でなくてもいいわけですが、これは採算が取れるなと思ってやってくれる人がいればいいわけですが、松崎町が、町がなかなかそういうふうにするわけにはいきませんので、なかなか思うようにいかないわけですが、松崎はそれなりのものを持っていると思いますので、やり方によっては、それなりのことができるのではないかなと思っていますところでございます。

○6番（土屋清武君）　それで、そういう組織ばかりで6次産業の関係につきましては、過去に国民宿舎からさくら葉餅ができあがって、大変評価されたわけですが、そういうようなこととか、一般の方たちに呼びかけることも大いに必要ではないかを感じるわけですが、そのようなことでぜひ進めていただきたいと思います。

続きまして、少子高齢化対策、子育て支援についてであります。町長はいろいろと努力され、聖和保育園をお願いしての長時間保育というような、その他奨学金等の関係のあれをやるというようなことで、大変良いことでありますけれども、そういうことだけでなく、下にも絡みますけれども、それ以外に雇用の場というようなことは、これは行政でなければなかなか簡単にできないんじゃないかと思うわけですが、雇用の場というような、雇用の場の確保というようなことを町長、ぜひこれに打ちあげるべきではないかと思うんですが、いかがなものでしょうか。

○町長（齋藤文彦君）　雇用の場といってもそう簡単にすぐできるわけではありませんし、どこでもみんな苦勞しているわけですが、やっぱり働き場所があつてのことだと思いますので、なかなか難しいと思いますけれども、いろいろやっていかざるを得ないと思っていますところでございます。

○6番（土屋清武君）　それで、下の次の杉並区と南伊豆町の関係ですが、これは注視

しているというようなことで回答があったわけですがけれども、町長、こういうような関係については、見ているだけでなく、南伊豆と一緒にあって、ぜひ法改正とかにさせていただくとかというような、ほかの関係についてもぜひ地域の自治体は被害を被らないような方法で、逆に雇用の場づくりというようなことで、積極的に、南伊豆の町長と積極的に働きかけるべきではないかと私は思うんですけれども、いかがなものでしょうか

○町長（齋藤文彦君） これは本当にこれが雇用の場になればいいなと思っているわけですが、まだどういう形になるかはっきり見えて来ませんので、南伊豆の町長ともよく「何か進展したら教えてください」というようなことを話しています。

また、この前ですね。南伊豆の町長と杉並区の方が来られまして、「今こういうふうな状況で進んでいますよ」というような説明がございました。松崎町に。

それで、「まだ皆さんのところに公表するような段階ではありません」というようなことです。非常注目しているわけですが、まだちょっと時間がかかるような気がします。

○6番（土屋清武君） 注視しているということだけでなく、南伊豆の町長と一緒にあって、自治体の・・・、この伊豆半島の地域にやたらにほかの企業が入りにくいというようなことの条件の場合については、介護関係の仕事しか・・・、なかなか企業は入ってこないんじゃないかというような感じが私はするわけです。

ですから、こういうようなことを積極的に進めて、松崎町が被害を被らないような、逆に今度は働き場ができるというようなことの努力と一緒にやっていくべきだというように感じるわけです。

○町長（齋藤文彦君） 注視していると言いましたけれども、南伊豆の町長とは話す機会がものすごく多いわけですが、そのようなことも話し合っているわけです。そして、いろいろ「進展があったら、いろいろ教えてください」ということ話していますので、いろいろなことがある、南伊豆の話しぶりだとそう簡単に・・・、厳しいのかなというようなことを言っていましたので、何と言いますか、「なかなかそう簡単には進まないよ」ということを言っていましたので、注視しているところでございます。

○6番（土屋清武君） それでは、その関係につきましては、雇用の場というようなことに繋がりますので、ぜひ上層部等へ働きかけをお願いしたいと思います。

次の、2期目のまちづくりの関係ですが、この広報の仕方関係で若干、地域に行って町政懇談会というようなことも言われましたけれども、確かに私も現役の時には、そのよ

うなことを企画にいた時はやりましたけれども、ですけれども、そういうようなことが、ただ同じ人が来るだけでということで処理しないで。広報なんかは町長、町民がどのくらい見ているかということを感じたことがあるでしょうか。ちょっとそこらを・・・。

○町長（齋藤文彦君） 広報をどのくらい見ているかというのは、ちょっとはっきりわからないわけですが、あまり見ていないなと私は感じているわけでございます。だから、町内宣伝というのがちょっと下手なのかなというようなことを感じているところですが、土屋議員の言うところのどういうふうにしたら町民の皆さんに私の考えがちゃんと伝わるかというのが、本当に大切なことだと思います。この「日本で最も美しい村」連合がスタートする時には、やっぱり町の皆さんが本当に意識を統一して、一つの方向に進むような形にしなければいかんと思いますので、どのような形が一番良いのかわかりませんが、そのような形を作っていく必要があると思いますので、いま中で考えているところでございます。

○6番（土屋清武君） 実は、私たちも議会の広報なんかで研修に行くわけですが、そういうような中で、だいたい30パーセント見ればいい方だというようなことを耳にするわけですが、ただ広報とか、区長会とかでなく、地域に行って、あとは集まる人は決まっているかもわからないですが、そういうことの努力をすることによって、現実には「我われの方に来てくれて説明があった。私はいかなかったけれども」というようなことが、現実には実績として残るわけですので、ぜひそのようなことをやっていただければ、町政懇談会・・・、というのは、私も、町長2期目の選挙で、今まで町長は1期やられて4年間やったことが町民の中で相当浸透しているというような感じを受けたのでしょうか。ちょっとその時の気持ちをお聞かせ願いたい。

○町長（齋藤文彦君） 私は一生懸命やっているつもりですが、「お前がやっていることはよくわからない」ということをよく言われるわけですから、そのことも自分たちはそれなりにやっているわけですから、それなりに広報するためにもやっぱり外に出て行かなければいかんかなと思っているところです。それが、どういう方法でやったら一番良いのかということとをいまちょっと考えているところでございます。

○6番（土屋清武君） 私もそれは痛切に、選挙前に「今の町長はいったい何をやって来たんだ」というようなことをよく耳にしたものですから、ぜひ、ただこちらで役場にて、区長会とか、広報でやっているからいいということではなく、地域へ行って説明するということは必要と感じたわけですので、ぜひその辺を考慮していただきたいと思います。

次の貫七線の関係であります、課長にちょっとお伺いしますけれども、貫七線の補助関係が26年で切れるというようなことだったんですが、それはどんな・・・、お伺いします。

○産業建設課長（山本秀樹君） 貫七線の事業につきましては、これは県営の事業ですね。県営の中山間地域総合整備事業という大きな事業の中の一つとして行われております。事業年度は一応28年度までという形になっております。

それから、現在の状況を少し説明しておきますと、地権者が95名いらっしゃいます。その中で、町外の方が所有しているのが73名、その73名のうち県外の方が67名ということで、ほとんどが県外の方というような状況になります。それらの方々に測量に伴う立入りを依頼するという文書を郵送したんですけれども、約50通が尋ねあたらずということで戻ってきたというような中で、いまそういう地権者の連絡先等を調査している最中というようなことでございます。

そのほかに現地の公図のずれとか、そういうものもたくさん見られるということがあるものですから、現地の立会が終わってもなかなか地図修正とか、そういう作業を含めるとなかなか大変なのかなというような感じがしております。

ただ、町の方としては、当初の予定どおり事業を進めていただくよう県の方にも要望していますし、それに伴うお手伝いというか、協力も惜しまないでやっているというような状況でございます。

○議長（稲葉昭宏君） 申し上げます。時間延長いたしますか。どうしますか。

（土屋議員「しない」と呼ぶ）

○6番（土屋清武君） いま貫七線の関係で町外の人が、所有者が73名、そして、県外が67名というようなことで、なかなか事業を進めるについて非常に困難を来しているようだけれども、この路線、これは下の・・・、それから岩科へと下る山口雲見線、この関係も県で代行してやるわけだけれども、この道路は災害時の避難路と136号が崩壊した場合についての避難路でもあるし、これは南伊豆の方たち、一部ですけれども、松崎町の商業圏としているわけですので、ぜひこの路線を一日も早く工事をお願いしたいと思います。

若干、残りがありますけれども、以上で私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（稲葉昭宏君） 以上で土屋清武君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

（午前 9時48分）
